

あなたは身近なテニス仲間を救えるか？ テニスコートでAEDを使うとき

医科学委員 飯野英親

2007年11月9日、テニスの試合中のことです。福岡市東区の運動公園で試合をしていた67歳の男性が突然に倒れて心肺停止状態になりました(2007/11/09付 西日本新聞)。
大会に参加していた女性看護師や公園管理事務所の職員が人工呼吸や心臓マッサージを実施。さらに、施設の管理事務所長が事務所にあった自動体外式除細動器(AED)を使って処置し、男性の心拍が再開しました。男性は一命を取り留めました。AEDとは突然に心停止状態に陥った時、心臓に電気ショックを与えて心拍を戻す機器です。救急隊の到着は、男性が倒れてから9分後の到着でした。その間、脳や主要な臓器への血流が十分に確保できなかつたら、倒れた男性の現在の生活の質(QOL)、生命予後は全く違ったものになっていたでしょう。事実、福岡市消防局は「応急処置がなければ助からなかったかもしれない」と話しています。蘇生の成功率は倒れてから除細動までに要する時間が1分遅れるごとに7 - 10%低下するからです。同じ試合会場にいた関係者(テニス仲間)がAEDを正確に使用できたことが、心臓突然死になりそうだった男性を救った出来事でした。

AEDを正しく使うためには、AEDの操作方法について講習を受けなければなりません。最近、職場・学校・お祭りなどのイベントなどで講習が開かれていて、受講機会は増えています。テニスをされる方は、AEDの操作技術を修得されることをお勧めします。

テニスは生涯スポーツで、ジュニアからシニアまで幅広く支持されています。テニスでは試合が夏季に集中するため、筋肉の痙攣や軽度の脱水は起こしやすい環境です。普段は身近な人が心肺停止状態になることなど想像もしませんが、現実には季節を問わずテニスコート上で心肺停止がおきているのです。

テニスコートでプレーヤーが心肺停止状態になったとき、あなたはAEDを使ってテニス仲間を救えますか？

参考情報

山口県医務保険課のWeb情報

<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a15100/aed/aedtop.html>